



年間第 33 主日 (マタイ 25:14-30)

この一年の清算は人生全体の総決算にもつながる

年間第 33 主日、来週の「王であるキリスト」を迎えると典礼暦も終わりを迎えます。僕たちの主人が、僕に預けたお金の清算を始める場面は、わたしたちにこの一年どのように過ごし、どのように結果を出したか問いかけているようです。「この一年の清算は人生全体の総決算にもつながる」こうした点について考えてみたいと思います。

たとえ話の主人は、僕たちにお金を預けています。細かい指示は出さず、僕たちが思い思いに活用して儲けを出すことを期待しているのが分かります。もし、このたとえが主人にどれくらい忠実に仕える僕であるかを測るたとえであるなら、細かい指示を出して、その指示にどれくらい忠実であったかを判断材料にするでしょう。

そうではなく、このたとえは主人が自分を信頼してお金を預けてくれたことを喜びと感じ、どれくらい積極的に活用するかを見ようとしているのだと思います。そしてこのたとえから天の国について考えるなら、規則や指示から右にも左にも逸れなかったことが天の国で評価されるのではなく、信頼されていることを喜びと感じて、どれくらい積極的に動いたかが評価されるということです。

皆さんは、積極的に動いてみなさいと言われてお金を預けられたとき、どのように行動するのでしょうか。タラントンという単位は 6000 ドラクメ、何かの仕事に就いてほしい 20 年間働いて稼ぐお金です。年間 300 万円の稼ぎがある人なら、20 年分で 6000 万円ということになります。これが 1 タラントン。5 タラントンと 2 タラントンは、それぞれの倍数になります。

金額がピンと来なければ、少し金額を下げてみましょう。一人には 500 万円、一人には 200 万円、一人には 100 万円預けた。これくらいの金額でしたら、実感が湧くかも知れません。さてこれだけのお金を主人から預かって、みなさんはどのような積極策に打って出るのでしょうか。

たとえ話の主人は、銀行に入れればよかったのにと、主人を恐れている僕を叱りつけていますが、今の時代、銀行の利子は当てになりません。100 万円銀行に入れても、金利 0.1% と仮定して 1000 円しか利子は付きません。主人に利子 1000 円を返すくらいなら、今の時代だったら非課税枠の投資に回したほうがましだと思います。

200 万円預けられたら何を考えますか。わたしは半分は非課税枠の投資、半分は教会の絵葉書を販売します。これで別に 200 万円生み出そうと思います。もっと預かる、500 万円預かる立場なら、半分は投資と絵葉書の販売、残る半分で鮮魚店を開店します。仕入れも自分でします。これで別に 500 万円を手に入れる目論見です。

「神父さまは働いたことがないから簡単に考えている」と笑うかもしれません。また、違う計算を立てる人もいるでしょう。いずれにしても、主人が僕に期待することは、任せられたことを喜びと感じてくれる

ことです。任せられたことを重荷と感じ、わたしに任せただけが悪いのですよというような態度を、主人は最も嫌うのです。

主人は僕の報告を聞きながら、こんなことを言いました。「忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。」(25・21,23) 主人にとっては、預けたお金は大した問題ではないのです。わたしたちには大きな金額に見えるかもしれませんが、主人が見ているのは任せてもらった僕が、任せられたことを喜びに感じているかどうかなのです。

わたしたちも、まことの主人に人生という限られた時間の中で預けられたものがあり、それを元手に積極的に行動することを期待されています。ある人は優れた頭脳を預けられているかもしれませんが。ある人は、友達づくりの才能を預けられているかもしれませんが。またある人は音楽やその他の芸術、または運動の才能が与えられているかもしれませんが。それらを積極的に活用して、まことの主人である神を喜ばせるような最終報告を待っているのです。

考えてみると、わたしたちが与えられた才能は「少しのもの」に過ぎないとも言えます。わたしの才能が人類の運命を握っているわけでもありませんし、わたしの芸術活動が歴史を塗り替えるわけでもないと思います。たとえそうであっても、才能を与えられたことは喜びと感じてほしいし、結果を報告するわたしたちを神は喜んでくださるのです。手放しで喜んでくれる神が待っておられるのに、それに答えられない理由がどこにあるのでしょうか。

神はわたしたちに、さまざまな才能を預けました。神が最も恐れているのは、それらの才能を重荷に感じて使わないことです。神がわたしに友達をつくる才能を与えてくれた。それなのに家に閉じこもってだれとも友達にならない。芸術やスポーツの才能を与えられたのに、それを使って人に感動を与えようとしない。こうして神に報告するものを何も準備しないことを、神は最も恐れているのです。

典礼暦は一年の終わりに近づいています。教会の暦を過ごす中で、「御覧ください。積極的に動いて、こんな結果を出しました」と、この祭壇を囲みながらまことの主人に報告をしましょう。こうして典礼暦の終わりを迎えるたびに、祭壇でわたしたちを待っておられる主に報告できるなら、それはそのまま、人生全体の総決算にも生きてくると思います。

人生のいろいろな時期で、わたしたちが任せられるものの量や質は変わってくることでしょう。それでも、任せられたことをつねに喜びと思い、誇りに思い、任せられたものに応じた報告を「御主人様、御覧ください」と声を上げることができるよう、ミサの中で照らしを願います。